

平成28年6月13日

厚生労働省障害福祉課
全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会
熊本県身体障害児者施設協議会
熊本県障がい者支援課
熊本市障害保健福祉課

御中

熊本県身体障害児者施設協議会
会長 三浦 貴子
(愛隣館)

熊本地震における支援等の状況報告について（22号）

6月5日～6月13日の報告をします。

支援協力者

- ① くまむた荘←福岡県むなかた苑：樋口さん・梶田さん、サンハウス：佐藤さん・徳丸さん、まどか園：新見さん・力丸さん、たいようの里：古賀さん・石橋さん、菊池園：月俣さん・井上さん、三愛園：松本さん、梅香苑：田中さん、大地の森：小黒さん、みやた苑：久保田さん、西友苑：栄光さん。
- ② 愛隣館←福岡県慈久園：吉田さん・田中さん。
- ③ 被災地支援事業←山鹿市ボランティア連絡協議会：本田さん・田上さん・福本さん・長瀬さん、よこはまチャイルドライン：徳丸さん、ベトナム育英会：秀嶋さん・川崎さん、愛隣館スタッフ。

物資等の受け渡し

- ・オニザキコーポレーション金丸美智夫社長（たかの友梨エステ物資）→愛隣館
- ・愛隣館（エステ物資）→くまむた荘・朋暁苑・たちばな園

ご協力まことにありがとうございました。

【活動と現状について】

（1）支援報告

- ① くまむた荘への人的支援は、福岡県の各施設から派遣継続中です。
- ② 能力開発センターへの人的支援は佐賀県から来て頂いているとのことです。
- ③ 愛隣館への慈久園、菊池園からの支援者は、リフレッシュ入浴支援のメンバーとしても活動して頂いています。
- ④ 6月13日、身障協日野会長、井上制度・予算対策委員、全社協高年・障害福祉部高柳さんが、愛隣館田中の案内で、くまむた荘・朋暁苑・たちばな園の現状を視察しました。くまむた荘の小林理事長をはじめ、各施設で話を伺い、今後、身障協としての復旧にかかる要望を取りまとめる予定です。

(2) 会議・情報交換

- ① 6月6日、熊本県身体障害児者施設協議会施設長・事務長会議を開催しました。主な議題は近況報告と厚労省の「平成28年熊本地震関連通知等一覧」の確認と共有でした。

主な意見として、A. 施設地盤の損壊、設備備品の破損が著しく、現状では災害復旧国庫補助対象ではないことが大きな課題（くまむた荘、熊本福祉工場など）、B. 従来本田技研の下請けをしているが、会社が復業できない状況なので仕事が来ない（くすのき園）。C. スプリンクラーの誤作動で病棟が使えず、他の病棟で対応してきた。やっと復旧に向かっている（江津湖療育園）などの話がありました。

この他、家や地域が甚大な被災を受けているのに、職員が休まず勤務表通りに仕事を続けてくれて感謝している（たちばな園ほか）との発言もありました。

復旧国庫補助対象は、建物とその構造に影響を及ぼすものに限られるとのことですが、地盤を直さず建物を復旧することは不可能です。地盤が割れて施設の建物が裂けています。当該施設の経営管理者方は途方にくれる程の復旧にかかる費用です。重い障害のある人々の安全な生活確保に向け、どうか厚労省でご検討頂きたいお願い申し上げます。

- ② 6月7日、厚労省 社会・援護局より度会さん、雇用均等・児童家庭局より下間さん、熊本県庁障がい者支援課より伊津野審議員、横山班長が来訪。福祉避難所等を視察されました。
- ③ 6月11日、被災地障害者センターくまもとの定例会議が、熊本障害フォーラム(KDF)、日本障害フォーラム(JDF)のメンバー等に、熊本県、熊本市も参加して開かれました。状況報告の中で、盲ろう者の方々から当事者、支援者共に被災してしまい、用意していたマニュアルは機能できず、避難所で情報を得ることは困難だった。食べ物がもらえることすら分からなかったとの報告がありました。

また、発達障害者の避難スペースを求めた際、「発達障害と言っても皆と平等です」と答えた公務員の看護師の発言は、合理的配慮義務を果たさない差別にあたるとの説明がありました。熊本地震は、障害者差別解消法施行後の災害であることを再認識しました。

(3) 被災地支援活動

- ① 6月8日、山鹿温泉リフレッシュ支援事業

西原村の大変元気な90代の男性は、今も避難所から畑に通い「むくご」などを栽培中です。120才まで生きる目標があると目をきらきらさせて話をされます。福祉工場GHでは、いつもはカラスの行水なのに、山鹿のお湯は柔らかくて良いと、皆さんゆっくり入られました。仮設のシャワーが設置されましたが浴室の修復は難しく、身体に障害のある方々は、これから暑くなるのに毎日の使用は難しいと話されていました。

- ② 6月11日、山鹿温泉リフレッシュ支援事業

熊本市東区の方は、ボランティアで参加された民生委員さんに、これまで話せなかったがと、地震で亡くなった方のお話をされたそうです。誘われて初めて参加したという85才の益城町の女性は、芸人からもらったとサインを見せられ、「今日から石原軍団が来ている」と明るく話されました。「(この事業に)参加して本当に

良かったー。みんなで食べるとおいしい。帰りたくない」とも。カーテン越しの避難所生活の現状を別の避難所の方へ話され、地元の情報交換が出来ていたようでした。

(4) ボランティア便り

『東日本大震災の時と同様「私達も熊本の人達の為に何かしたい！出来れば顔の見える支援を！」と役員の母達が義援金活動をし、先生や子ども達も応援メッセージ入りのお菓子や手作りうちわを作りました。三浦館長より益城町立益城幼稚園に繋いで頂き、ボランティアに入る事が出来ました。子ども達を守り育てる同志として、直接お見舞い金や私達の想いをお伝えできた事、とても感謝しています。

また、山鹿温泉リフレッシュ事業のお手伝いにも参加させて頂き、綿密な連絡調整のもとに継続されていること、とても素晴らしいと感動しました。持参したうちわやお菓子を喜んでくださった事が嬉しかったです

美しの森幼稚園では、今後もバザーや、現地ボランティアを予定しています。今回の繋がりを大事に、微力ではありますが熊本の皆さんに心を寄せ、応援を続けていきますので、どうぞよろしく願いいたします。』

横浜 石渡学園美しの森幼稚園 中嶋直子

さいごに

10日、アール・ブリュット（生の芸術）パートナーズ熊本の総会の際、熊本の作家さん達（自閉症の方々多数）は皆無事で、ご家族が震災の日とその後を語って下さいました。通う施設が倒壊し、全面移転となったKさんの大好きな場所、動物園と熊本城が壊れ、楽しみにしていたバーベキュー大会も中止となった話に、何とかバーベキュー会だけは皆で取り戻してあげたい気持ちで一杯となり… 秋の展覧会の前に、まずはその企てを始めようと思います。三浦

(連絡先) 障害者支援施設愛隣館

TEL : 0968-43-2771

FAX : 0968-43-2793